

(14)図書館活動の充実

現在、週休日設定による開館日数の変更や児童生徒数の減少など、図書館を取り巻く状況に変化が生じており、図書館活動においても質的な向上が必要となってきました。

そこで、後期計画では、生涯学習や地域の情報拠点として、様々な情報の収集と発信に力を入れるとともに、子どもたちが生涯を通して学ぶ力を育むため、子どもの読書活動推進計画に基づき、子どもが読書に親しめる機会の提供や環境整備と、情報を集め活用する力の向上に重点をおいた取組を推進します。

事業項目(担当課)	事業内容説明
①生涯学習と地域の情報拠点としての図書館の充実 図書館	生涯学習及び地域の情報拠点としての「役に立つ魅力ある図書館」を目指し、行政や関係団体等と連携し様々な情報を収集・提供します。また、団体貸出を活用して、図書館外でも本に触れることができる環境づくりを進め、読書活動の拡大と普及を図ります。 ◆図書館外部との連携による企画展示の実施 ◆団体貸出 まごころ本箱「はこぶっく」の活用
②子どもの読書活動の推進 図書館	子どもの読書環境整備を進め、読書の習慣化と読書活動を支えるとともに、調べる学習の普及推進を図ります。 ◆第2次子どもの読者活動推進計画の策定 ◆図書館を活用した調べる学習コンクールの実施

😊目標指標😊

※印は、平成27年度実績

指標の名称と説明	単位	平成28年度 〔実績〕	平成33年度 〔目標〕
図書館外部との連携事業実施回数	回	※ 133	140 (1.05倍)
図書館を活用した調べる学習コンクール応募点数	点	105	120 (1.15倍)



滝川市子どもの読書活動推進計画

平成 26 年度から平成 30 年度 成果検証報告書のまとめ

1. 0 歳前

1) 成果

- ①保健センターと連携を図り、妊婦を対象とした「たきかわっこマタニティクラス」を年 4 回継続的に実施することで、出産前の読み聞かせの大切さなどの啓発を図ることができました。
- ②おすすめ本の紹介として「小さな本棚」マタニティ編を発行し、これから親となる保護者へ子どもの読書の大切さを啓発できました。

2) 課題

- ①マタニティクラスへの参加者は多いとは言えません。
- ②保健センターとの連携をさらに深め、周知方法の改善などを図り、参加者を増やしていく必要があります。

2. 乳幼児

1) 成果

- ①ブックスタートを実施することにより、0 歳から 3 歳児の図書館の利用が伸びています。
- ②図書館の本を利用して、家庭での読書活動が充実してきたと考えています。
- ③個人的な貸出だけでなく、まごころ文庫「はこぶっく」を活用し、幼稚園・保育所へ新鮮な本を毎月届けることで、読書環境が充実し、読み聞かせを通じて乳幼児が本にふれる機会を拡大することができました。

2) 課題

- ①幼稚園・保育所に通うことにより、そこで本にふれる機会は充実しましたが、家庭での読み聞かせなどの機会が減少しています。

- ②絵本のおはなし会「たまたばこ」の利用者も減少傾向にあり、過去と比較し参加者の低年齢化が進んでいます。
- ③子どもたちが幼稚園・保育所に通い始めるのを機に働くお母さんが増えており、また、塾や部活などの様々な教育活動に子どもたちを早い時期から取り組ませる傾向があるため、図書館を利用し、読書活動が継続できるような啓発活動が必要と考えています。そのためには、幼稚園・保育所との連携を強化するとともに、面白い本と出会えるような仕掛けも考えていく必要があります。

3. 小学生

1) 成果

- ①図書館学級文庫や調べ学習図書の貸出など、年間約 23,000 冊の本を学校を通じて小学生に貸し出すことで、継続的に本とふれ合う機会の充実を図ることができました。
- ②学校だけではなく、学童クラブなどへの貸出文庫や出張おはなし会を実施することで、学校以外の場所における読書環境を充実させることができました。
- ③読書アルバムを活用する児童が増え、4年間で 1,088 人が 100 冊を超える本を読む成果につながっています。1年で 2,700 冊を達成する児童もいました。
- ④自ら学ぶ力を育むために、平成 28 年度から「滝川市立図書館を使った調べる学習コンクール」を実施しています。年々作品が増加しており、全国コンクールにも、毎年作品を出品しています。また、「調べる学習体験講座」を実施し、調べ学習支援の充実を図りました。

2) 課題

- ①「学校図書館担当職員の配置」、「蔵書のデータベース化の推進」については実施に至っていません。
- ②連絡会議における先生との意見交換を行いながら、図書の除籍作業や環境整備、本の修理やブックカバーをかける作業の指導など、それぞれの学校に合わせた図書室の運営サポートに取り組んでいます。

4. 中学生

1) 成果

- ①中学生は読書離れが進む年代ですが、「図書館学級文庫」を実施することで、本にふれる機会を提供できています。
- ②朝読書を取り入れるなど、学校でも本にふれる機会の充実に努力をされています。朝 10 分程度の読書を取り入れることで、落ち着いて授業に移行することができるという声もあります。
- ③学習室の利用者が増加しています。
- ④職場体験で図書館を利用する機会が増えています。
- ⑦壁新聞作成時の取材などでも利用されるなど、様々な場面で図書館を利用する機会が増えています。

2) 課題

- ①全国的な傾向として、中学生の個人の貸出数が少なくなっています。
- ②中学生頃から、趣味・嗜好がはっきりしてくる時期であり、ニーズに合った蔵書の充実を図る必要があります。
- ③「ヤングアダルトコーナー」の図書の充実を図っていますが、まだまだ利用者数は多いとは言えません。

5. 高校生

1) 成果

- ①「ヤングアダルトコーナー」の充実、またそれらの本を紹介するチラシなどを配布することにより、図書館の活動や蔵書などについて啓発を図ることができました。
- ②これまで連絡会議で、小・中学校との連携を図ってきましたが、本計画を作成するために、高校における読書活動の状況など相談する機会も生まれ、新たに高校との連携を築くことができました。
- ③環境について学ぶボランティアグループ「エコ部！」や、まちづくりに参加する「まちつく」など、高校生の主体的な活動が図書館との新しいつながりを作るきっかけとなっています。
- ④高校の放送局が朗読会など図書館の活動に参加したり、料理部がと連携してイベントを実施するなど、事業への参加の機会が増え、図書館と高校生の連携も深まってきています。

2) 課題

- ①高校生に関わってもらう機会は生まれましたが、全国的傾向として高校生の図書館の利用は少

なくなっています。

- ②高校生と定期的につながりを持ち、活動に参加することを通じて、同世代の友人に図書館の活動を発信してもらうなど、継続的な連携を持つことが重要であると考えてます。
- ③高校生に参加してもらうことで、情報の提供者であるとともに、発信者になってもらうような取組の検討が必要であり、その活動を通じて、高校生の利用促進を図っていきたいと考えています。
- ④高校の図書局との連携がまだ図られていないので、新たな取組みとして連携のあり方を考えていきます。

6. 特別な支援を必要とする子ども

1) 成果

- ①出張おはなし会「地域のお茶会」では、重度の障がいのある子どもが参加してくれるなど、少しずつではありますが、ふれあう機会を作ることができました。
- ②「図書館学級文庫」で特別支援学級や通級指導教室への貸出を行い、本とのふれあいの機会を作っています。
- ③中学校の職場体験実習で特別支援学級の生徒を受け入れました。

2) 課題

- ①子どもたちと直接的なふれあいの機会を充実していく必要があると考えています。
- ②「図書館学級文庫」等での貸出の際に、子どもたちと交流を図ることで、そのニーズを把握していく必要があります。

7. 子どもをとりまく大人

1) 成果

- ①ブックスタートやマタニティクラス、子育て講座や教職員への研修会などを通じて、大人への啓発を図ることができました。
- ②絵本のおはなし会「たまたばこ」などの事業を通じて、ボランティア活動の機会を提供することができました。
- ③読み聞かせや朗読に関する研修会を実施し、質の向上や人材の育成を図ることができています。
- ④読み聞かせ機材の充実を図り、貸出する機会が増え、福祉施設の読書環境の整備を行いました。

2) 課題

- ①図書館ボランティアの全体の人数は増えていますが、子どもの読書活動に関わるボランティアが増えておらず、主体的な活動には至っていません。
- ②学校でも PTA によるボランティア活動が行われていますが、後継者がいないのが課題の 1 つです。
- ③読書活動を支える人材の育成が求められます。

実施主体	0歳前	乳幼児	小学生	中学生	高校生	特別な支援を必要とする子ども	子どもをとりまく大人	
家庭	お腹の赤ちゃんへの読み聞かせ	家読タイムの実施					絵本の読み聞かせ	
地域		出張おはなし会の活用						
子どもと大人が集まる施設	病院等への地域文庫の設置 妊婦を対象としたマタニティクラスでの啓発	絵本の紹介や読み聞かせ 子育て情報の提供	出張おはなし会の活用			出張おはなし会の活用 地域文庫の設置 団体貸出の活用	絵本の読み聞かせ活動への参画機会の提供	
幼稚園 保育所 託児所 学校		出張おはなし会の活用	学校図書館担当職員の配置			図書館学級文庫の活用	絵本の読み聞かせ活動への参画機会の提供	
		読み聞かせ機材の活用	蔵書のデータベース化の推進				学校図書館支援 ボランティアとの連携	
		団体貸出の活用	アニメーションの実施		団体貸出の活用	昔話絵本の充実	図書館との連携	
		読書環境の整備						
		読み聞かせの実施				読み聞かせの実施		
		本などを通じた体験遊びや創作遊びの提供	蔵書の充実		蔵書の充実			
			図書委員会の活動充実					
			ブックトークの実施					
			朝読書や休み時間を使った読書タイムの実施					
			調べ学習での図書の活用	調べ学習での図書の活用				
		図書館だよりの発行						
		授業での図書館の利用（総合的な学習など）						
図書館	おすすめ本の紹介	ブックスタートの実施（4・5か月児相談期）	パスファインダーの作成			点字併記図書の収集	保護者への啓発活動の実施	
	母子手帳での図書館利用案内	ブックスタート（1歳6か月児健診期）	本を活用した体験プログラムの実施	ビブリオバトルの実施		感触を楽しむ絵本の収集	読み聞かせ講習会の実施	
	「たきかわってマタニティクラス」での講話	ブックスタート（3歳児健診期）	アニメーションの実施	ヤングアダルトコーナーの充実		大活字本の収集	学校との連携	
			図書館学級文庫の実施			福祉への理解を深める図書の選出・貸出	読み聞かせ機材の貸出	
			児童書の充実			昔話絵本の充実	読書普及活動への参画機会提供	
			月齢・年齢・学年に応じたおすすめ本の紹介					
		紙芝居・大型絵本読み聞かせ機材の充実	調べ学習図書の充実			団体貸出の活用	図書整理・修理講習会の実施	
		出生届提出時におはなし会の案内	学校図書館運営相談の実施			図書館学級文庫での図書の選出・貸出		
		出張おはなし会の実施	学校図書館環境整備支援	学校図書館環境整備支援		地域文庫の設置		
		「あかちゃんといっしょ」の実施	読書感想文向け図書の紹介・展示	学習室の利用促進				
	幼稚園・保育所・託児所への団体貸出	読書アルバムの配布						
		絵本の読み聞かせ						
		ブックトークの実施						
		絵本作家講演会・ワークショップの実施						
		企画展示の実施						
	たまたばこの実施							
		図書館司書体験プログラム		職場体験の受入				

凡例

- 太線・・・新規事業
- 実線・・・拡充する事業
- 点線・・・継続事業
- 網掛け・・・十分な取組みができなかった事業

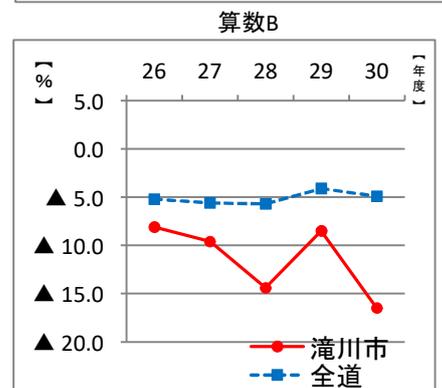
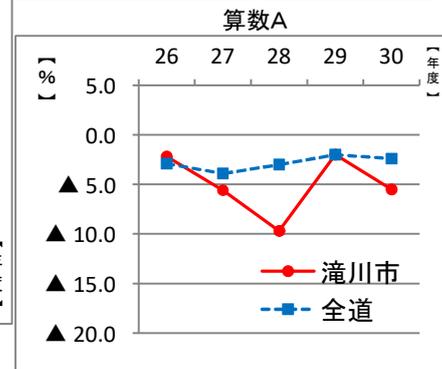
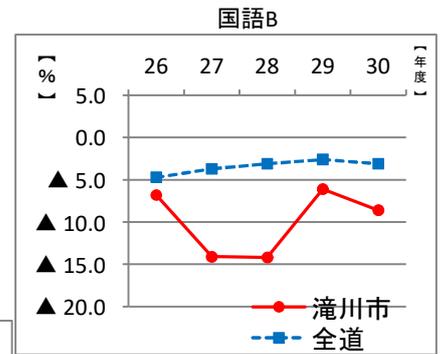
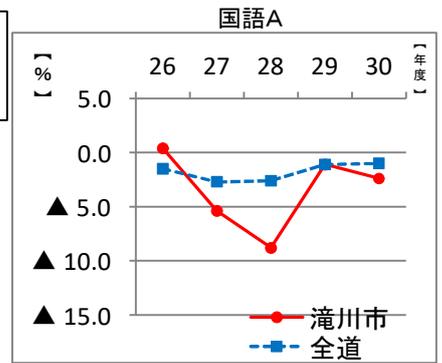
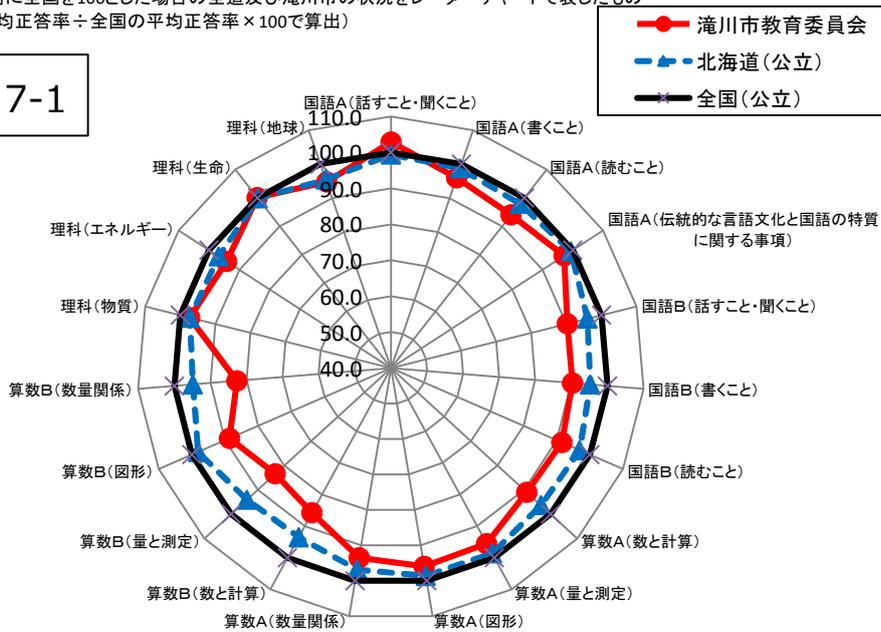
3 滝川市立小学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：6校、児童数：319名）

【教科全体の状況】

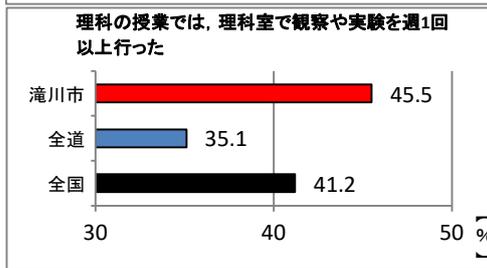
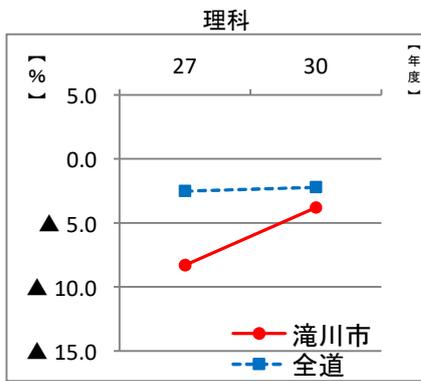
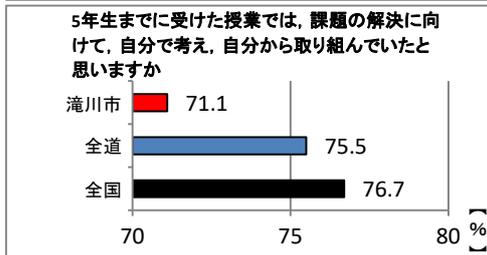
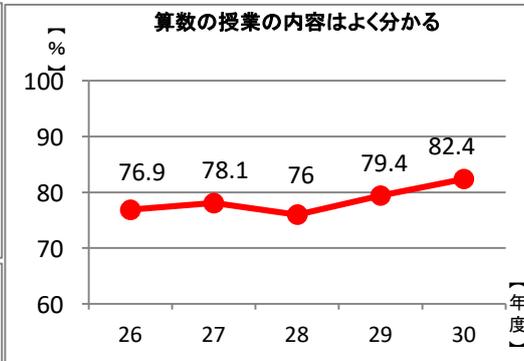
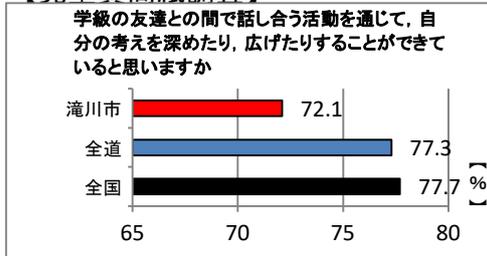
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したものを（滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）

※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したものを。

資料.7-1



【児童質問紙調査】



【分析】

教科	今年度は、理科の平均正答率が全道・全国平均に近づく伸びを見せた。週1回以上の実験や観察が授業で行われたことにより、児童の目的意識が明確となり、実感を持った理解をすることができたと考えられる。領域別に全道の平均正答率と比較すると、国語Aの「話すこと・聞くこと」、理科の「生命」は上回っているが、算数Bの「数と計算」及び「量と測定」、「数量関係」は差が大きく、苦手としている傾向が見られた。	学校は、児童の姿や地域の特色、各種調査結果等に基づき、教育課程を編成し、PDCAサイクルを確立させた。また、児童の学習状況や課題を全教職員で共有し、組織的に授業改善に取り組んできた。今後はさらに児童の学力傾向を綿密に分析し、課題となっている領域の力を高めるために、授業では「話し合う活動」や「振り返る活動」を意図的・計画的に取り入れ、放課後等では学習サポートを充実させたりする等の手立てを講じる必要がある。
児童質問紙	算数の授業がよく分かる」と回答した割合は、昨年よりも3%の伸びが見られた。しかし、学習内容の定着には至っていないことが、算数Aと算数Bの結果から見て取れる。今後、授業中における友達との対話や学びの振り返り、家庭での学習の習慣の確立に向けた取組を通して、学習内容の確実な定着を図るとともに、自らすすんで課題に働きかける主体的な態度の育成に努める必要がある。	
学校質問紙	「学習規律の維持を徹底した」「教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った」「前年度に理科の授業において、理科室で観察や実験を1クラス当たり週1回以上行った」と回答した学校が多い。	

【滝川市の学力向上策】

- 個に応じた学びの支援のため、退職教員等外部人材活用事業や「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している。
- チーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、一人一人の児童が抱える学習のつまずきの解消や発展的な学習の充実に取り組んでいる。
- 小学校3・4年生に対して「少人数学級実践事業」を導入し、児童一人一人へのきめ細やかな指導・支援を行い、理解度や興味・関心の向上を図っている。
- 放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補足的・発展的な学習に取り組ませるとともに、児童の家庭学習への意欲化・定着化を図っている。
- 授業改善推進チーム活用事業を活用した学校間の取組の発信・共有による積極的な授業改善を推進している。
- ◎各小学校において主体的・対話的で深い学びを実現するために必要な情報の発信に努める。

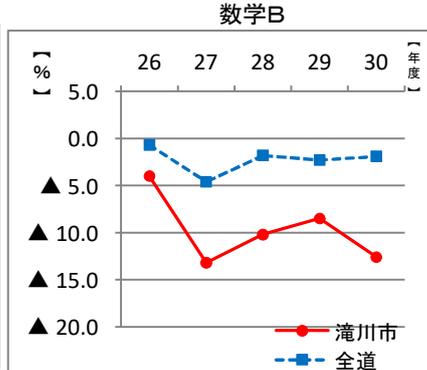
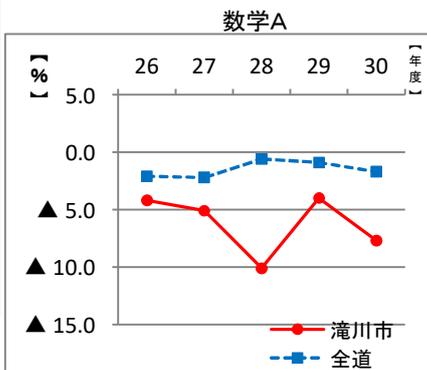
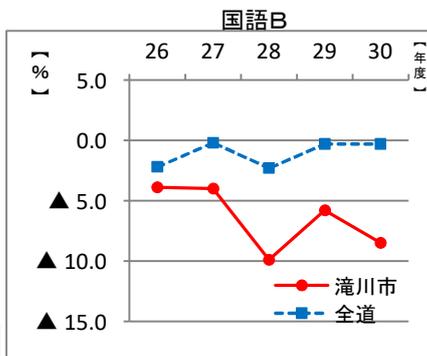
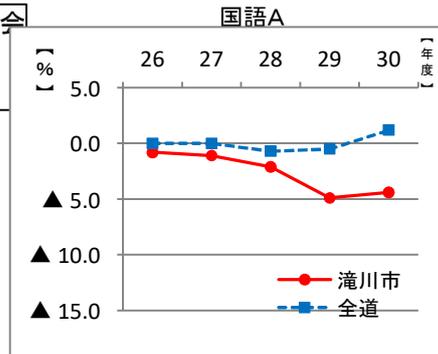
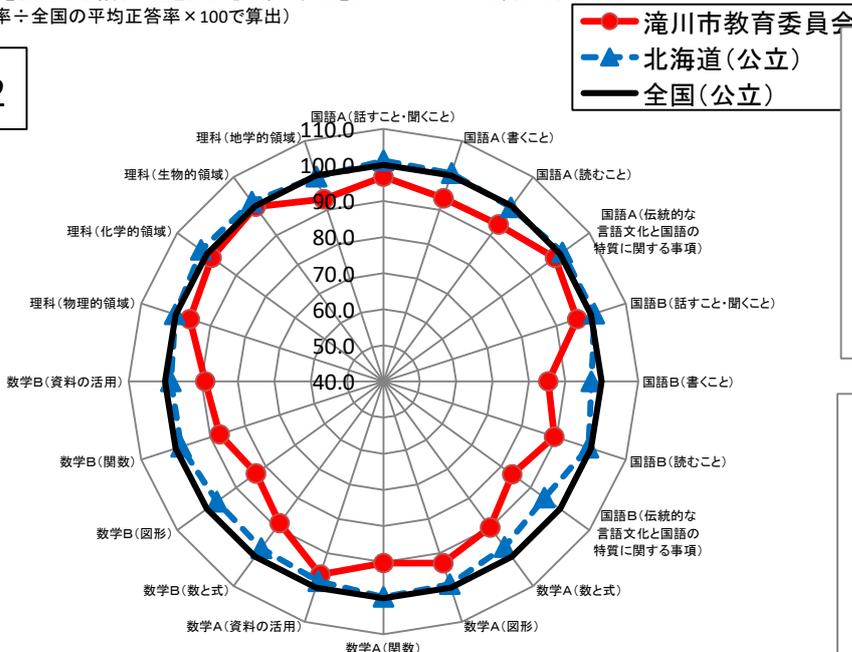
6 滝川市立中学校の学力の状況及び学力向上策(学校数:4校、生徒数:304名)

【教科全体の状況】

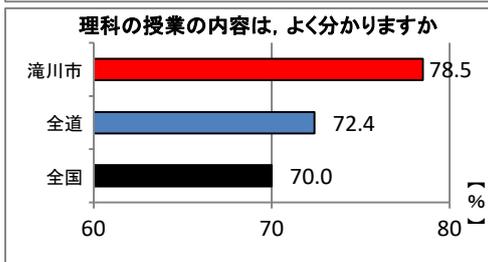
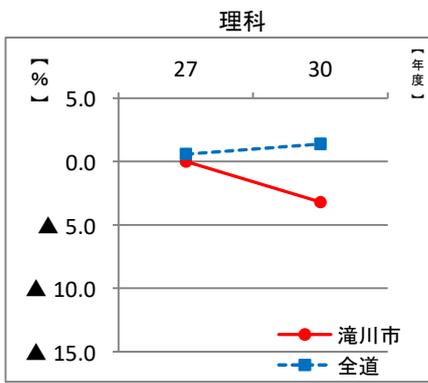
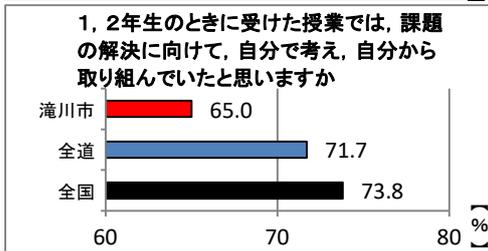
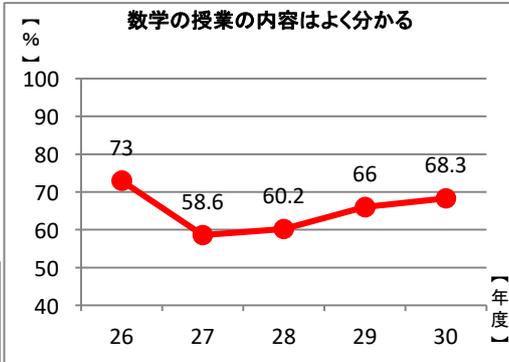
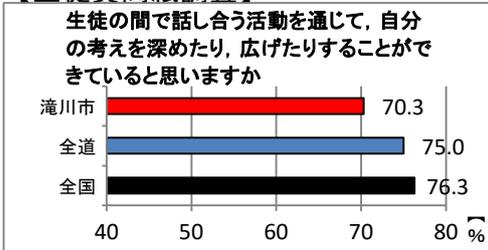
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したものの(滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)

※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を
経年変化で表したものの。

資料.7-2



【生徒質問紙調査】



【分析】

教科	国語Aについては、全国平均正答率との差を縮めたが、他のすべての教科と同様に全国平均を下回っている。領域別に全道の平均正答率と比較すると、理科の「生物学的領域」は、同程度となっているが、国語Bの「書くこと」及び「伝統的な文化と国語の特質に関する事項」、数学Bの「図形」は差が大きく、苦手としている傾向が見られた。	学校は、生徒の姿や地域の特徴、各種調査結果等に基づき、教育課程を編成し、PDCAサイクルを確立させた。また、生徒の学習状況や課題を全教職員で共有し、組織的に授業改善に取り組んできた。今後はさらに生徒の学力傾向を綿密に分析し、課題となっている領域の力を高めるために、基礎学力を定着させるとともに、授業中、生徒の興味・関心、意欲を喚起させたり、「振り返る活動」を計画的に取り入れたいしながら、主体的な学びへと繋がる手立てを講じる必要がある。
生徒質問紙	数学の授業内容がよく分かる割合は、昨年よりも2%以上の伸びが見られた。しかし、学習内容の定着には至っていないことが、数学Aと数学Bの結果から見て取れる。理科においても、同じような傾向が見られることから、学習内容を定着させるために、友達との対話を通して学習の深まりを感じさせたり、課題の吟味や発問の工夫により、生徒の興味・関心を高めたり、指導計画及び指導方法の工夫改善に取り組んだりする必要がある。	
学校質問紙	「学習規律の維持を徹底した」「学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付けて評価する取組をよく行った」「前年度に理科の授業において、理科室で観察や実験を1クラス当たり週1回以上行った」と回答した学校が多い。	

【滝川市の学力向上策】

- 個に応じた学びの支援のため、退職教員等外部人材活用事業や「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している
- 学力の二極化を解消するため、チーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、基礎・基本を確実に習得させ、知識・技能の定着を図っている。
- 各学校において家庭学習の手引を作成・活用し、望ましい家庭学習の定着に向けた取組を各家庭と連携して推進している。校区小学校と連携して作成した手引を用いている学校もある。
- 放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補充的・発展的な学習への取組を推進している。
- ◎各中学校において主体的・対話的で深い学びを実現するために必要な情報の発信に努める。

滝川市社会教育委員名簿

(敬称略)

委員長 山木 傑

副委員長 前野 和子

委員 白川 清久

柴尾 智子

柴田 直美

白神 祐貴

曾根 英司

田中 一徳

前田 静枝

村田 淳子



第2次滝川市子どもの読書活動推進計画

発行 平成31年3月

発行者 滝川市教育委員会

編集 滝川市立図書館

滝川市大町1丁目2番15号

電話 (0125) -22-4646

FAX (0125) -23-1284

E-mail: tosyo@city.takikawa.lg.jp